

気まぐれ通信

令和2年4月11日 第118号

発行者 有限会社津口ファーム

1日も早い収束を望む

ウイルスの脅威

連日、テレビをつけると、ラジオを聞くと新聞を開くと新型コロナウイルス感染拡大の報道ばかり目や耳に入ります。世界中がこんなに大変なことになるなんてウイルスの脅威をあらためて感じざるをえません。我々の業界にとっては、鳥インフルエンザウイルスも脅威です。鳥インフルエンザが発生したら感染していない鶏まで殺処分となり、半径3キロ圏内は、移動禁止という厳しい措置が取られています。かわいそうだとか思ってゆるめると広範囲に蔓延してしまうから、今思うと正しい措置なのかなあと思ってみます。

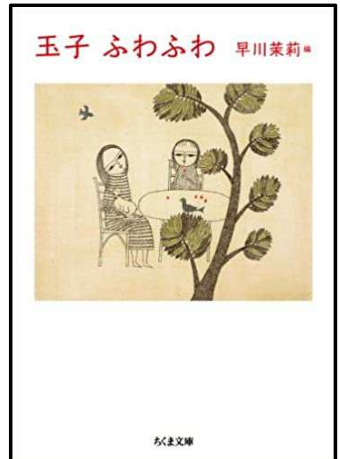
鶏さんには気の毒ですがやむを得ない対策が早期の封じ込めにつながっているでしょう。人の感染は、もちろんのこと同じようには当然できません。できるとしたら今報道されている3密、「密閉」「密集」「密接」を避け、咳エチケット、手洗い、消毒の励行とできるだけ外出自粛を心掛けることが重要であるのだと思います。新型コロナウイルスに効果のあるワクチンの開発、使用も期待したいところですが、一日も早く収束して、普段通りの生活が戻って色々なイベントやスポーツが開催されることを願う毎日です。

*しゅうそくという漢字は 収束、終息の2つが使われていますが、どっちも正しい文字とのことでしたので収束を使用。

本の紹介

新型コロナウイルスの影響でセミナー、シンポジウム、展示会といったありとあらゆるものが中止となりストレスが溜まっていると思います。そんな時、食に関する本でも読んでリフレッシュしてはいかがでしょうか。

今回は、10年程前の本ですが、「玉子ふわふわ」早川茉莉編(ちくま文庫)「375人の作家により玉子にまつわる話あれこれ」林芙美子氏、北大路廬山人氏、向田邦子氏といった顔ぶれが卵への



の思いを語っています。嵐山光三郎氏が温泉たまごをたくさんもらったのはじめは薄口醤油とかつおだし汁で、次はしょうが醤油で、大根おろしとじゃこ醤油で、あつというまに5個食べたあと昼寝をしたあとキムチと一緒に食べたというのが、傑作である。

「卵のふわふわ 八丁堀喰い物草紙・江戸前でもなし」宇江佐真理著

(講談社文庫)

江戸に広がる暖かい煮炊きの煙、人はね、当たり前のことがおもしろくないんだよ。裏返しや逆さまが好きなのさー江戸を彩る食べ物と、温かい人の心を映し出す。

「淡雪豆腐」「黄身返し卵」が紹介されています。



6月2日は

オムレツの日

The OMELETTE-DAY 0602[オムレツ]